■2014年2月に高崎市下之城町に開設した眼科クリニック。開院当初より電子カルテを導入し業務効率の向上、ミスの未然防止など高度の医療サービスの提供に努めている。専門は加齢黄斑変性症、白内障手術（先進医療の認定施設）、網膜硝子体疾患の外科的手術など。

下之城眼科クリニック
http://www.shimonojo-eyeclinic.jp

患者の気持ちに寄り添う高度な眼科医療の提供

各種医療機器と先進のオペ技術を用い患者本位の眼科医療サービスを提供

自分ならその医療を受けるか。自分の大切な家族にその医療を勧めることができるか。下之城眼科クリニックの太田博仁院長が語る「患者本位の医療」とはそうした考え方をベースにしています。患者の望みを極限まで叶える信頼の医療が同クリニックの目指すところです。

理事長・院長
太田 博仁

おおた・ひろひと／2000年藤田保健衛生大学医学部卒業後、慶應義塾大学医学部眼科学教室入局。足利赤十字病院眼科医長、高山眼科緑町医院副院長などを経て、2014年下之城眼科クリニック開院。日本眼科学会認定眼科専門医。

クリニックだから目指せる医療サービスを提供

「病気の苦しみや辛さを味わった人間が、本当の意味で患者の気持ちや不安な心に寄り添える……良医になるには自分がその病気になればいいんだよ」

高校生の頃、病気をして将来の方向性を見失ったときに主治医にそう言われたことが、医師になるきっかけになったという下之城眼科クリニックの太田博仁院長。

群馬県高崎市で白内障、緑内障、網膜硝子体疾患などを積極的に治療し、地域に愛されるクリニックを目指すこの眼科医院は、本当の意味での患者本位の医療の実現を目指しています。

例えば、レーザー白内障手術装置（LenSx）を導入した理由について、「大学でも大病院でもないクリニックだからこそ、きめ細かい気配りができ満足度を高められ、患者様の不安に寄り添った高度な医療を提供できるのではないか。サービス業として患者様の要望に応えられるのではないかと考えたからです」と院長は答えます。

そしてそのLenSxを使った医療を提供するに当たっては、「まず自分の家族に勧められるかどうか、あるいは自分が患者だったら受けようと思えるかどうかというところで判断をします」と語る。院長は実際に、2016年の12月に導入した白内障の先進治療装置であるLenSxフェムトセカンドレーザー、2017年12月に導入した術中診断装置ORA Systemを父親の両眼同時白内障手術で初めて使用しています。

「清潔であること、親切であること、日々勉強し最新の知識を持ち続けること、誠実であることなどが私の考えるクリニックの姿です」という理想は、そのまま患者が通いたい医院の姿に重なります。

両眼同時の白内障手術。硝子体手術も日帰り

いまや日帰りでも行われ、安全な手術として認識される白内障手術ですが、術後眼内炎などの感染症や後嚢破損による硝子体脱出、水晶体落下という合併症が起こる事態も考えられ、これらは治療が遅れると失明の可能性すら生じます。

「こうした合併症に対応するには本来、硝子体手術ができる専門医がいないと治療ができません」

下之城眼科クリニックはそうした非常事態にも迅速に対応し、自院ですべてリカバリーできるように施設、医療機器、人材育成に力を入れトータルで整えています。

前述のLenSxフェムトセカンドレーザーや術中診断装置ORA Systemなどをさらに適切に扱うことで、白内障手術の精度や安全性が高まっています。そして白内障手術よりさらに難しい硝子体手術の技術も持ち、リカバリー体制ができているからこそ、今では両眼同時の白内障手術の件数も増えています。

また、毎週行っている硝子体手術を支える装置「コンステレーション」は手術顕微鏡に設置した広角眼底観察システム（リザイト）と組み合わせて小切開硝子体手術の安全性を高めており、硝子体手術においても日帰り手術が可能になっています。

患者の望みを叶えるためにあえて難しい手術に挑む

患者本位の一例を見てみます。例えば仮に網膜と白内障両方の手術が必要な場合、従来は一度の手術で白内障も同時に保険診療で治療することが一般的です。同時手術なら手術によるリスクも一度で抑えられるメリットがあるからです。その場合、眼内レンズは保険診療の範囲内の単焦点になります。

「しかし患者様が少しでも良い眼内レンズを入れたいと希望すれば、あえて白内障手術はしないで、まず網膜をしっかり治療し、後日、落ち着いた時点で先進医療特約を使いレーザー白内障手術を行い、多焦点レンズ（2焦点レンズ）を入れるということもできるわけです」

手術の難易度は上がりますが、術後に眼鏡をかけない生活を望まれる方にはその気持ちに極力沿いたい、と院長は考えるのです。

見え方の質向上にこだわり術前や術中検査を行うことも

白内障手術で同クリニックが最も気に掛けているのが、手術後の見え方の質の向上を図ることです。

術後の見え方の質を低下させる理由の一つが角膜乱視の存在。術後の生活スタイルを十分に考慮し、患者一人ひとりの乱視の強さに注目して乱視矯正レンズの使用や、LRI（乱視矯正角膜輪部切開）を行うなどの処置を追加します。

白内障手術では人工レンズを目の中に固定しますが、このレンズの度数をベリオンなど各種装置を用いて術前検査で予測します。しかし、LASIKを受けた方や白内障がかなり進んだ患者の中には、この術前検査で測定したデータの信頼性が低い場合があります。

そこで活躍するのがORA Systemです。「この装置は白濁した水晶体を手術で摘出した後に術中計測し、挿入すべき眼内レンズのデータを確認することができます。つまり、術前検査が机上計測の理論値であるのに対して、ORA Systemは実測値であることが強みです」

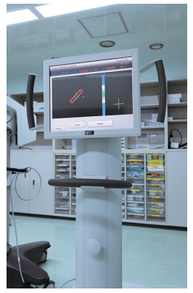
難症例の方こそ、この装置による計測は有効と考えられています。

オンリーワンのクリニック目指して

下之城眼科クリニックの昨年（2017年1～12月）の主な手術の件数は、硝子体が152件。白内障が786件（硝子体手術時の同時白内障手術156件含む）などです。「忙しくなると、クリニックにとって患者様はたくさんいる患者様のうちの1人になりがちです。しかし患者様にとって医師はオンリーワンの存在なので、どんなときも患者様に寄り添うオンリーワンのクリニックでいたいです」と太田院長は語ります。

■高度眼科医療を支える医療機器

北関東初導入（日本で18台目の導入施設）のレーザー白内障手術装置「LenSx」ではメスを使わずに安全かつ正確に白内障手術が行える。術前検査で取得した患者の角膜データを手術時に顕微鏡のガイド下で利用できる「Verion」。難症例白内障手術や網膜硝子体の手術にも対応する手術装置「コンステレーション」。術中診断装置「ORA System」など各種の先進機器を導入。



CLINIC DATA
医療法人エスポワール
下之城眼科クリニック
〒370-0854
群馬県高崎市下之城町184-3
TEL.027-386-4149
FAX.027-386-4146
http://www.shimonojo-eyeclinic.jp/